

「エマオの道、恐れへの覆い」

ルカ 24 : 13 ~ 36

■ 人間が勝てない競争

それは、命です。人間は 100 パーセント死にます。それなのに人は死を恐れ戦いを挑んできました。私たちにとって死は戦うべき相手ではありません。そのためにイエスキリストは十字架で、私達がこの死と戦わなくて良いように、命をかけて死なれ復活されました。コロナウイルスがなくなって戦争がなくなって、殺人や交通事故すべての事がなくなって、人は死を恐れます。私達は自らの死の問題を整理できていません。だから自分の人生がどうなるか不安になるのです。もう一度理解しなければならないのは、私達のこの体は死ぬということです。だから命が与えられている期間、私たちがどう生きるかが大切です。長く生きるのが幸せではありません。それぞれの人生に与えられた期間が有りそれをいかに今日を生きるかが聖書の根本です。私たちが何によって生きているのかを今一度確認しましょう。

■ ウイルスの次にやってくるもの「恐怖」 日本赤十字社の動画 「ウイルスの次にやってくるもの」より

ウイルスの次にやってくるもの、ウイルスから身を守ることは、きちんと手を洗うだけで、感染する確率はぐんと下がる。でも、心の中にひそんでいて、流れていかないものがある。そいつは、お腹を空かしてみたいで、暗いニュースや間違った情報を、たくさん食べて、どんどん育って、そして、ささやく。先の見えない状況を『もうみんな助からない』と。誰にもまだ分からないことを、『誰かが隠しているのだ』と。そいつは、人から人へと広まっていく。『あの人気が病気になるのは、誰のせい？』『ウイルスが広まったのは、あいつのせいだ』『世界がこうなったのは、あいつのせいだ！』そいつは、周りに攻撃をはじめます。人と人が傷つけあい、分断がはじまる。そいつは、脅かす。『もしも感染していたらどうする？』『あんな風に言われたらどうする？』みんな熱があっても、隠すようになる。具合が悪くても元気なふりをするようになる。もう誰が感染しているか分からない。ウイルスがどんどん広がっていく。鏡を見るとそこに、もうあなたはいない。そいつの名前は『恐怖』ウイルスの次にやってくるもの。もしかしたらウイルスよりも恐ろしいもの。

この動画は非常に考えさせられます。恐れや不安は私たちの覆いとなって本当に見るべきもの、するべきことをわからなくさせてしまいます。恐れは私たちにどのような影響を及ぼすのか今日の聖書の箇所から見えていきましょう。

■ 「エマオの道 恐れへの途上」

クレオパともう一人の弟子は 70 人の弟子と呼ばれるイエスの弟子でした。この二人はイエスの復活の話を見ました。しかし弟子でありながら信じる事ができず、エマオという所に向かっていました。弟子たちが集まっているエルサレムから離れようとしていたのです。そんな時に二人の所にある男が近寄ってきました。それは復活したイエスでしたが二人の目は遮られていてイエスだと気づきませんでした。(ルカ 24:19) イエスが、「どんな事ですか」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。」と答えます。そしてイエスの復活の話も (ルカ 24:24) 「それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」

と、二人はイエスを信じていましたが、信じていると言いつつ、現実に生きていました。その結果、神ではなく「力ある預言者」だと言ってしまう。女たちの話も「というのです。」と疑っています。私達と良く似ています。現実と実際が違う。口では神様を信じていると言いながら心の底では現実に生き完全に信じていることができません。

彼らは恐れでいっぱいでした。そんな彼らがだんだん男と話していくうちに変わっていきます。恐れに満たされた彼等が、楽しく語り合っているうちに、なんとなくこの人と一緒にいたいと思うようになります。まだイエスだとわかってはいませんが、なんとなくこの頼もしい人と一緒に居たいと思うようになります。これが今の日本の現状でもあります。強いリーダー、物事をはっきり言ってくれる人、どんな決断であろうと決断できる人を求めようとします。これは依存で、このような状況は危険です。このエマオの途上からイエスがこの二人の弟子に関わった方法から私たちはどうあるべきか学ぶことができます。聖書の中にはイエスを受け入れようとした人と、受け入れなかった人の人生が描かれています。聖書は、良いお言葉

が書かれている書物ではありません。人の生き様が書かれています。創世の時代から、神様に従った人と、従わなかった人の人生のストーリーがそのまま描かれています。

■ エマオ：暖かい温泉 暖かい井戸

彼らの目がささぎられていて、イエスだとはわからなかった」ルカ 24 : 16

「目がささぎられて」とは「クラテオー」名詞は「クラトス」：「力、支配、政治力、強さ」を表します。「この世の神が不信者の思いをくまらせる覆いをかけて、福音の光を輝かせないようにしている状態。」であり、弟子たちは恐れ・失望・疑い等々の覆いによって支配され、隣に立っているイエスに気が付きませんでした。エマオは「暖かい温泉」という意味があります。あなたは強い覆いにより大切なものを見失い、エマオ (暖かい温泉)、昔の道や自分を守ってくれそうな人や場所に戻ろうとする心はないでしょうか？もしあるならば、覆いがかかっているかもしれません。

■ エンパワメント

個人や集団が自らの生活への統御感を獲得し、組織的、社会的、構造に外郭的な影響を与えるようになることでであると定義される。という意味です。私たちは独裁かエンパワメントかを選ぶ時代に入っています。杉原千畝、ネルソンマンデラ、イエスキリスト・・・これらの人物がエンパワメントと言えるでしょう。ある一人の人がたくさんのニュースや情報の間に立ち、正しい行動をもってその使命に対して最善を選び続け成し遂げていく。これがエンパワメントです。センメルヴェイス・イグナツ・フェレブ (消毒法の先駆者) もその一人でした。彼は感染についての原因を発見しました。妊娠直後になぜ妊婦が亡くなるのかわからなかった時代に、手洗いによる死亡率の低下を学問的に確立したのです。しかし彼の発見は結果的に医療従事者側の不衛生を立証してしまうことになるのでその時には受け入れられず彼は精神病院に入れられてしまいます。そこで彼は亡くなってしまいましたが、彼の発見は多くの命を救いました。私たちは手遅れになる前、恐れる前に、語られたことを聴くべきです。このような時だからこそ、自分がいつも主の前に静まれるようにしなければなりません。聖書を読めば私たちがどうあるべきかがわかります。判断基準は聖書だからです。コロナウイルスは世界中を揺るがし大変な問題となっています。マスク・手洗い・免疫力を高める等々・・・言われている多くのことはずっと昔から言われてきたことでした。しかし、それを今までどれだけの人が真剣に備えてきたでしょうか。大問題が起きるとそのことに恐れを感じます。恐れを感じないと行動しない、これでは愚かではないでしょうか。正しい情報を整理して考えて自分のとっている行動が正しいかどうかを整理しなければなりません。恐れるからマスクをするのでしょうか、であるなら地球温暖化対策にも従うべきではないでしょうか。

人の痛みを感じとれる人は、その痛みを感じて対応できます。しかしその感性が鈍感になっていると感じられなくなります。覆われることになるのです。隣にキリストが立っていても彼らにはわかりませんでした。覆われていたのです。食卓についてパンを割いて初めてその男がイエスだとわかりました。私たちは「恐れ」という覆いを取り去りエンパワメントを選びましょう。

さいごに

私たちはお互いの役割を尊重し隣人を愛し仕え合うと決めていても、何かをきっかけに自分の欲が、大事な物を無にしてしまうことがあります。そして自分の欲を得るために相手に取った行動によって結果自分を無にしてしまいます。これでは、お互いをつぶし合うだけです。私たちは神がせよと言われたことを、この世に仕えながら神の義に生き、死に至るまで忠実でありましょう！権利を求めるとは、自分に任された義務を果たそうとする人生となるように。またそのような社会になるように。私たち一人の生き方がとても大切です。自分の中のエマオを明け渡し、すべきことが行えるよう神様から力が得られるように祈りましょう。主よ行わせてください。この手の欲を取り去って下さい。見るべきものから目をそらせようこの目を閉ざしてください。主の御心がなんであるか、ベタニアのマリアのように悟る力を与えてください。死に至るまで忠実なものとなさせて下さい。

(要約者:岡本英樹)

(2020年4月26日)